

10/4-5 Oct 4~5, '03

参加者:  
石川、北島、田中、中島、  
町田、安田、山岡、  
ゲスト: 高橋、土田、

BMW RS CLUB

## かわらばん

志賀高原で見事な紅葉を眺め  
姫木平のレンガ屋で深まる秋  
を満喫した素晴らしい二日間  
かわらばん一中島邦雄 描絵-小倉玲子

九月に入り暑さのぶり返しのような日も有りましたが、行きつ戻りつしていた夏の後ろ姿がいつしか遠ざかり、街を歩くと何処からともなく、爽やかな金木犀の香りが漂う日々となりました。都内でもハナミズキが赤い実を付け、葉先から秋色に変わり柿の実も黄ばみを増して、まさに秋の深まりが感じられる今日この頃です。

そんな素晴らしい秋の日々が続く今月四日、五日に、今年二度目の一泊ツーリングが催行されました。五月に伊豆の土肥に泊まって温泉につかり、それは見事な魚づくしの素晴らしい思いをしましたが、その後は6月、7月そして9月のツーリングも雨で流れ、メンバーの皆さんとは実に四ヶ月ぶりの顔合わせです。さて今回は深まり行く秋の高原で存分にその風情を楽しもうと、志賀高原から菅平を抜け、日本百名山の一つに数えられる美ヶ原を越え、白樺湖に近い姫木平のペンションへと向かいました。

上信越道に入ると抜けるような紺碧の空と澄み切った大気の中に、ノコギリの刃のような両神山や秩父の山々、そして妙義山の岩肌がすぐ手の届くような近さに聳え立ち、木々の葉が僅かに色づき始めています。「松井田妙義」の料金所を出ると実際に人々に、クラブの長老、町田さんが何時ものスタイルで待っていて、互いの健康と再開を喜び合いました。

軽井沢から峰の茶屋を抜け「鬼押し出し」に近づくと、噴火中の浅間山の煙がまさに空を覆い尽くすかのようでした。

温泉から吹き出す硫黄の匂いを嗅ぎながら万座を抜け、白根山方面からの合流点を左折し、見晴らしの良い場所で休むと、空を覆うかのように吹き出す浅間山の噴火の様子が、本当に手に取るように見え、自然の凄さを見た思いがしました。

志賀高原の蓮池に向かって走ると、ツタウルシが燃え立つような紅色で現れ、ヌルデやハゼ、ウルシそして目薬の木も秋を待ちかねていたかのように、サーモンピンクの装いに衣替えをしていました。

高度が下がると景色は一転して一面の白樺林に変わり、丸池に近い周囲の景色に良くマッチした、瀟洒なレストランに昼飯に立ち寄ると、窓の外の真っ赤に変わった大きなカエデの木と、周わりの緑や洒落た建物とが見事なコントラストを造りだし、外国の景色を思わすような素晴らしい雰囲気を醸し出していました。

食事を終えて外に出ると近くの池の周囲は、まさにクリスマス・ツリーを思わすような見事な紅葉で、カメラを担いだ人々で賑わっていました。上林温泉から湯田中温泉郷を抜け上信越道の「信州中野IC」に入りました。ところが走り始めて暫くするとやがて「黒姫」や「妙高」というサインが現れ始め、なんと反対方向の上越方面に向かって走っているではありませんか。

上信越と上越を間違えた為で、信濃町ICの料金場の前でUターンをし、暫く戻ると一時の雨も上がり明るくなっています。

更埴JCから「上田菅平IC」に向かい、其処からR406で長門町、和田村、扉峠へと走り継ぎ、やがて美ヶ原へと上り詰めました。

あの幾つもの彫刻群がやや霧のかかった中に浮かび上がる頃には、気温もぐっと下がり今年初めてグリップ・ヒーターのスイッチを入れました。車の増えたビーナスラインを走るとやがて白樺湖が見え始め、そろそろ今夜のお宿までもう一息です。

五時近くに大門峠を少し下った姫木平の素敵な「ペンション・レンガ家」に着くと、石川さんとゲストの高橋紀子さん、そしてヨーロッパ・バイク旅行などを企画する土田さんが既に到着し、早速にビールの仲間に入れてもらいました。

東京から此処まで412kmでしたが、茨城県からの町田さんは、六時半に家を出て480kmを走ったとか。ゴクローさんでした。

温泉に浸かって存分に手足を伸ばし、洒落た食堂で前菜でビールを飲み、白身魚と鶏肉のソテーそして焼き立ての香ばしいパンを楽しみつつ、赤、白、そしてロゼのワインが次々と空きました。食後に場所を移し物音一つしない静かな中で、宿から差し入れのブランデー嘗めながら、気心の知れた仲間と遅くまで語り合い、本当に楽しい一夜が静かに更けて行きました。

翌朝は鳥の声にそっとカーテンを開けると、もう木漏れ日が差し始め見事な晴天の朝を迎えました。早速に朝風呂を浴びて昨夜のアルコールを発散させ、木々に囲まれた庭に出ると、周囲の緑にむせ返るかのようでした。

ゆっくりと朝食を楽しみ9時半に名残が尽きぬままに、宿の母さんに見送られて出発となりました。町田さんは一人でゆっくりと一般道を走りながら戻ることで、下の道で左右に分かれ我々は再び白樺湖に戻り、しけたガソリン屋でガス補給をし、八ヶ岳の回りを巻くような形で走り始めました。見事な晴天の中に山々が浮き上がりご機嫌でしたが、残念なことにこの辺りは紅葉する木が少なく、僅かにナナカマドやカエデの類いが色づいていた程度でした。そんな山の中の交差点でパトカーが一時停止の違反を取り締まっていました。「冗談じゃねー」こんな田舎のお芋に捕まつたら、ご先祖様に叱られます。

やがて標高1420Mの「牧場の公園」というお洒落な休憩所に着きました。すぐ近くに赤岳が岩肌をあらわに横岳を従えるように聳え立ち、未冠雪の富士山も雲間から顔を出し、山裾の緑の中には牛が牧草をはんであたかもスイスを思わす風景でした。

晴天だからか沢山のバイクが次々に山を登ってきます。  
下りをご機嫌で飛ばしましたが、私がうっかりと  
無線のコードを繋いでなく、曲がり口を通り越し  
一人で先に行き、安田さんが追いかけ連れ  
戻してくれました。ゴメンナサイ。  
この辺りに有名な蕎麦屋があり、その  
店で昼飯をとることになりました。石川  
さんの先導で田舎道に入ると、畑の真ん中に  
なるほど立派な店が有り、車が一杯に並んでいます。



時分時には少々早く、うまく座敷の部屋に通されました。  
待つほどに太打ちの蕎麦に、薮ソバ風のやや辛めの汁  
が出てきました。こんな辺鄙な場所によくぞこ  
れだけの人が来るものだと感心しました。  
道の混まない内にと、一時少し前に  
帰途に就き一時ジャストに「長坂IC」に入  
りました。「談合坂SA」に向かい、各々がアッ  
と言う間に消え去りました。私と高橋さんが後から  
追いかけると甲府東の辺でオービスが点灯しました。

腹が良くなり車の通行も少なくて、走っていると眠気を覚えるほどでした。ボンヤリしていると「中島さん、海老名通り越  
していませんか?」と田中さんから無線が入り、気が付いたら既に相模湖のそばでした。さらに次の「石川PA」も通り越してしま  
い、本当に今日は馬鹿ばかりしていて自己嫌悪に陥りました。「長坂IC」から2時間、三時前に約700キロを走り、無事に文京区の  
自宅に帰り着きました。今回の企画及び設定をして下さった北島さん。本当にご苦労様でした。そしてお世話様。  
久々に参加された町田さんも大喜びをされ、我々にとっても天氣にも恵まれ、本当に素晴らしい一泊ツーリングでした。